雲南病院だより

新年のごあいさつ

病院事業管理者　大谷（おおたに）　順（じゅん）

新年明けましておめでとうございます。昨年の今頃は、まさか現在のような状況になろうとは、誰一人として思わなかった事が起きた激動の一年でした。

言うまでもなく、新型コロナウイルスという目に見えない相手との闘いです。

今や世界中が衆知を集めて制圧に向かっていますが、残念ながら決定打は見いだせておらず、開発の進みつつあるワクチンの完成、効果も期待したいところですが、不透明感が漂います。

国も自粛要請や新しい生活様式などの方針を掲げていますが、本当に正しい方向に進んでいるかは分かりません。それは「新型＝イコール」これまで誰も経験していない」からです。新型であるが故でしょうか、今回のウイルスは人の心も蝕む様です。

「同調圧力」や「自粛警察」など、緊急事態で先が見えない不安も重なるが故に、人間の本性が現れてしまうことも悲しい現実です。

当面は社会全体が当事者意識を持って危機感を共有して立ち向かうことが重要です。

当院も昨年は新型コロナウイルスに翻弄されましたが、相手の手のうちや弱点は徐々に分かってきています。常に新しく、正しい情報を手に入れ、正しく恐れこの禍を乗り切っていきたいと思います。

そして私たちが直面する問題は新型コロナウイルスだけではありません。国の進める地域医療構想、すなわち現状の医療提供体制を需要に合わせて再構築することをめざした制度のことです。その完成目途とされる令和7年が迫っています。地域にとってデリケートな問題であるが故、先送り感もありましたが、新型コロナウイルスの感染拡大を機に、医療崩壊を防ぐためにもスピード感を持った議論が求められます。当院は、今日の新型コロナウイルスへの対応を含め、地域の皆様が安心して生活できる地域づくりを第一義に、本年も変わらず雲南地域の医療体制の維持、充実に努めてまいります。

院長　西（にし）　英（ひで）　明（あき）

新年明けましておめでとうございます。

本年が皆様にとって、良い年でありますことを、祈念致しております。

昨年は新型コロナウイルス感染症一色の一年となってしまいました。昨年のお正月頃には、中国武漢市での局地的な流行であったものが、瞬く間に全世界に広がり、パンデミックとなりました。我が国でも東京をはじめ、都市部で感染が広がり、都市封鎖には至りませんでしたが、日本中が完全に自粛ムードとなってしまいました。東京オリンピックも、まさかの延期となりました。まさに数百年に一度の厄難と言うべき、このコロナ禍の一年でした。しかし現在もまだ収束の域は見えず、第三波の真っ只中にあります。感染多発地域では、医療崩壊が危惧されており、島根県の状況もどう変化するか予測不能であり、全く油断はできません。

雲南市立病院でも、この新型コロナウイルス感染症への対策として、入院の面会制限、来院者への検温、マスク着用の徹底など、皆様には大変ご負担をお掛けしています。これらは来院される皆様の安全を担保するためと、ご理解いただけましたら幸いです。皆様に安心して、また安全に受診してもらえるよう、わが雲南市立病院は、これからも全力で、必要十分な感染対策を講じてまいります。

最後に〝丑（うし）年〟の〝丑〟は「我慢（耐える）」や「発展の前振れ（芽が出る）」を表す文字とのことです。現在われわれが耐え忍んでいる、この新型コロナウイルスの感染拡大とその影響ができるだけ早期に収束することを願いまして、年頭のごあいさつとさせていただきます。

病院で働く医療のプロフェッショナル

病院では、治療を行う医師や看護師をはじめ、さまざまな職種のスタッフが働いています。

その多くは専門性の高いスキルや知識が必要で、国が認める国家資格を有していなければ就けない職種がほとんどです。日進月歩の現代医療に携わる仕事であるために、常に専門知識を磨く努力をする必要があり、高度な専門技術に加えて、コミュニケーションスキルや人間性なども求められます。また、一人の患者さんに複数の医療スタッフが連携して、治療やケアを行う「チーム医療」にも取り組んでいます。

Interview 介護福祉士の仕事について

～介護福祉士・福島美奈子（ふくしまみなこ）（取得後９年目）～

介護福祉士という職業を選んだきっかけは？

同居していた祖母はもともと心臓が弱く、身体が病弱な状態であったため、将来介護が必要になったときにお世話になった祖母のために役立つのではないかと思い、まずはホームヘルパーの資格を取得しました。入職時は回復期リハビリ病棟へ配属でしたが、療養病棟への異動をきっかけに回復期とは違う、心身の機能が低下し終末期を迎えられる方などの療養を支えていくためには自身のスキルを上げ、さまざまな学習が必要と考え、介護福祉士という職業を選びました。

普段どんな仕事をしていますか？

患者さんの入院生活援助、主に排泄（はいせつ）、入浴、食事介助、レクリエーション、環境整備など患者さんの身の回りのお世話（介護）を中心に携わっています。

雲南市立病院で働いてみての感想は？

当院で働く前は別の仕事をしていたので、最初は仕事や環境に慣れることができるのか不安がありました。しかし、実際に働いてみると病棟の雰囲気も良く、何よりも患者さんに対して多職種の職員で関わることで、チームワークが生まれ、より協力してお世話（介護）することができています。

今後、どのような介護福祉士になりたいと思っていますか？

患者さんの生活の場として、穏やかに過ごせるような介護サービスの提供をしていきたいと思います。また、自分の知識や技術の能力を高め、患者さんに安心感を与え、寄り添い、患者さんから一番身近な存在である介護福祉士になれるよう頑張りたいです。

介護福祉士の仕事のやりがいを教えてください。

日々、患者さんとのコミュニケーションを大切にしています。その中で患者さんのちょっとした笑顔、いつもよりたくさんの言葉や目での合図、手の動きなど、普段と違うところを発見したりできることに喜びとやりがいを感じています。

体位交換の様子

食事介助の様子

病院紹介

4階中央病棟

地域医療　日本一をめざし頑張ります！

平成14年４月に介護療養型医療施設（愛称：ふれあい病棟）を開設し、平成29年７月に医療療養病棟（48床）に転換しました。現在、看護師12人・介護福祉士４人、介護員６人・病棟薬剤師１人・病棟栄養管理士１人で患者さんの療養上のお世話を行っています。

【医療療養病棟とは】

急性期の治療を終えても引き続き医療提供の必要性が高く、在宅や施設での生活が難しく病院での療養が必要な患者さんに利用していただく病棟です。酸素吸入・人工呼吸器・頻回な吸引・褥瘡（じょくそう）処置などを行っている患者さん、また、指定難病で在宅での生活が困難な患者さんや緩和ケア・ターミナルケア（看取り）など療養上重要度の高い患者さんのお世話から、退院支援（施設入所）まで幅広く、安心と真心の看護・介護を提供しています。

【病棟の特徴】

療養環境

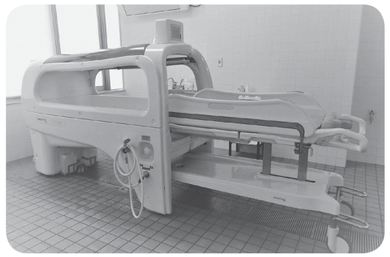
入院されている患者さんに入院中であっても季節感を少しでも味わってもらえるよう、雛祭り、七夕、紅葉、クリスマス、お正月など四季折々の風景などを手作りの壁飾りにし、病棟内に展示しています。

天の川（７月）

椿とコウノトリ（12月）

入浴環境

当病棟にはミスト浴（洗髪機付きシャワードーム）を設置しており、浴室空間も広く明るく、また音楽を聴きながら入浴できることから、患者さんからは大変好評をいただいています。



洗髪機付きシャワードーム

このミスト浴では清潔が保たれ褥瘡の完治も早いです。

食事環境

経口摂取ができる患者さんはデイルームで職員と話しをしたり、テレビを見ながら食事をしていただきます。こうすることで生活リズムができ、食事摂取量が増える方が多いです。また、胃瘻（いろう）・腸瘻（ちょうろう）の患者さんはお部屋で栄養剤注入による食事をされますが、時々リクライニング椅子やベッドでデイルームに移動して注入による食事をしていただくこともあります。

【最後に】

当病棟は患者さんに寄り添い、ゆっくり時間をかけて関わる病棟です。今後、高齢化社会の課題に取り組みながら、当院の中での医療療養病棟の役割を考え、職員一同がそれぞれの個性を生かし、きめ細やかな看護・介護を提供していきます。

医療体験（高校生）の様子

中央病棟スタッフ

総合診療医が答える

「こんな症状や疑問 持っていませんか？」

第10回：「人とのつながりの重要性」

このシリーズでは総合診療医が患者さんからいただいた質問をもとに市民の皆さんが困っている症状や疑問について解説します。

先日いただいた質問はこれです。

「つながりって何故大切ですか？」

普段当たり前のように感じている「つながり」という言葉ですが、調べるといろいろな定義があるみたいです。改めて、「なぜ大切か」と聞かれると、感覚的には大切だと感じますが具体的にどれだけ大切かというと意外と答えられる方は少ないのではないでしょうか。

今回は、つながりの重要性について具体的に紹介します。

最も重要なのは、

「日頃の人との付き合いがなくなることは大きな健康被害になる」

ということです。

具体的にいうと、日頃仲良くしている方々と会わなくなったり、関係性が乏しくなったりすると、健康に大きな影響が出るとされています。**親しい方と会わなくなることはタバコ(15本/日)を吸っているのと同じぐらいの健康被害**があるとされています。これはアルコールを毎日飲んだり、肥満になったりするよりも大きな健康被害です。

よく、仕事勤めをしている会社員の方や仕事場での人間関係が多かった方が仕事をやめた後に、健康を崩すことが多いのは、この「人とのつながり」の喪失が関係しているとされています。この傾向は**男性の方が強い**ようで、女性は普段から地域で関係づくりが活発にされていることが好影響を与えているようです。

もちろんこの健康被害はずっと続くわけでなく、新しい人間関係や退職後の地域でのつながりの回復によって、元に戻るとされています。

新型コロナウイルスの感染拡大が続く中で、多くの高齢者が地域での活動の自粛を頑張って続けています。もちろん、感染対策は必要です。しかし都会とは感染状況が異なる中山間地域では、**地域の感染状況などを考えながら、地域自主組織の活動を今までのように続けていくこと**が今後の地域の健康にとって重要かもしれません。

つながりを失うことは

喫煙（15本/日）と同じ影響

アルコール過量摂取や肥満より大きな影響

佐久総合病院　小松裕和（こまつ ひろかず）医師提供

感謝状贈呈

11月27日(金)、速水雄一前市長（前開設者）、藤井勤前副市長にこれまでの功績を称えて感謝状を贈呈しました。

速水前市長は、市立病院の初代開設者として、市立病院への経営移管や組織体制の変更をはじめ、新病院建設事業や病院経営の根幹となる医師の招聘など多大なる支援とご尽力をいただきました。

また、藤井前副市長は公立病院改革プラン評価委員会をはじめ、病院建設検討委員会など病院運営の重要施策に参画され、多大なるご貢献をいただきました。

お二人のこれまでの多大なる功績に感謝し、職員一同、これまでの取り組みを発展させ、「地域を支える病院・地域医療日本一」をめざしていきます。

花束贈呈